

器楽（弦）

[演習] 第2学年 前期 必修 2単位

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》近藤里美

【概 要】

音楽理論やソルフェージュで学んだ知識をもとに、音楽を療法的に用いるために必要な弦楽器の知識と技能を習得する科目である。

【学習目標】

音楽療法を実施するために必要なギター（ウクレレ）の基礎知識と演奏技能を身につける。

1. ギター（ウクレレ）の構造と機能を説明できる。
2. 弦の張替え、楽器の構え方や演奏姿勢を理解し、基本奏法が安全に実施できる。
3. コード譜を読み取り弾くことができる。
4. 移調して演奏することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	・授業の進め方、授業概要、評価方法の説明	近藤里美
2 }	弦楽器の取り扱い	・ギター（ウクレレ）の構造の理解 ・弦の張替え、チューニングの習得	近藤里美
3			
4 }	弦楽器演奏の基本	・ストラミング奏法の理解と技能の習得 ・演習と自主学習①	近藤里美
11			
12 }	コードネームの理解	・コードネームの理解と演奏 ・アルペジオなど様々な演奏法の習得 ・演習と自主学習②	近藤里美
19			
20 }	弦楽器演奏の応用	・曲想に適した演奏法の選択と実施 ・オープンチューニングの理解と技能の習得 ・演習と自主学習③	近藤里美
29			
30	まとめ	・弦楽器の療法的活用に関する要点の整理 ・各自の課題点の抽出 ・まとめ	近藤里美

【評価方法】

平常点 50%、授業内で行う技能達成確認テスト50%

【備 考】

教科書 ： 特に指定しない。必要な資料・楽譜は授業で配布する。

その他 ： 学習形態は、個々の能力に沿った個人・小グループレッスンを基本とする。

【学習の準備】

- ・あらかじめ配布された資料・楽譜をもとに、十分な事前練習を行うこと。
- ・毎回の授業後には、各自の課題点を整理し十分に復習すること。
- ・事前学習・事後学習に各々80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技能を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

近藤里美（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び介護保険施設などでの実務経験を活かし、音楽療法に必要な弦楽器の技能演習を行う。